

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

栃木県 下野市立南河内中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- 期 日：2021年10月29日(金)
- クラス：2年1組(33名)
- オリンピック：黒岩 敏幸 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/ アルバールビル大会、リレハンメル大会、長野大会】

■授業のながれ：運動の時間 (3時限)

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



- ・自己紹介の後、運動を通して3つのオリンピックの価値「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」を感じてもらいたいと話し、準備運動に移る。
- ・準備運動は、「言うこと一緒、やること一緒(やること逆)」を実施。先生の動きを真似するだけでなく、頭の中で動きを整理して切り替えることを意識するように伝え、3回実施する。

○主運動等



- ・主運動はボール送りリレーを実施。6班に分かれ、後ろ向きでボールを送り、折り返し地点のコーンを回り、再びボールを送りながらゴールし、順位を競う。1回目はバスケットボール、2回目はバレーボール、3回目は班毎にボールをどちらか選び、合計3回実施。



- ・運動の時間を振り返り、簡単なルールだけを伝えていたが、そのルールの中でどのようにしたら早くボールを送れるか、ルールに則って作戦を考え、意見を出し合ってくれて良かった。座学の時間では、運動の時間で感じたこと、工夫したことを班毎にまとめ、発表してもらおうと伝え、授業終了。

- 期 日：2021年10月29日(金)
- クラス：2年1組(33名)
- オリンピック：黒岩 敏幸 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/ アルバールビル大会、リレハンメル大会、長野大会】

■授業のながれ：座学の時間(4時限)

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピック出場時の映像を見ながら、競技紹介を行った後、アルバールビル、リレハンメル、長野大会への3大会連続出場を果たしたと自己紹介。
- ・チャレンジという言葉が好きだが、目標に向かってチャレンジするにはどのようにしたらよいのかを考えたり、運動の時間で感じたオリンピックバリューを掘り下げ、目標達成への第一歩に生かそうと、授業の目的を伝える。
- ・アルバールビル大会で獲得した銀メダルを披露する。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考えよう
 発表：エクセレンス：「一生懸命取り組めた」「皆で楽しんで、諦めなかった」「6位でも最後まで全力を尽くした」等
 フレンドシップ：「声を掛け合った」「協力して話し合いができた」「ボールの渡し方を皆で考えた」等
 リスペクト：「友達を信じてボールを送った」「ルールの解釈が違っていても誰も文句を言わなかった」「感謝の気持ちを持った」等



- ・授業の目的で話した、チャレンジすることとは、今日の運動の時間のように色々な経験を、悔しい思いや嬉しい思いをして、次にどうするかを考えることだと思う。これからの日常生活にオリンピックバリューを取り入れることで人間力が養われる。今日感じたことを家に帰って家族にも話してほしいと伝え、授業終了。

- 期 日：2021年10月29日(金)
- クラス：2年2組(33名)
- オリンピック：黒岩 敏幸 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/ アルバールビル大会、リレハンメル大会、長野大会】

■授業のながれ：運動の時間(5時限)

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューについて説明し、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」を運動の時間を通して感じてもらい、座学では運動の時間で感じたオリンピックバリューをさらに考える時間にする伝え、準備運動に移る。
- ・準備運動は「言うこと一緒、やること一緒(やること逆)」を実施。

○主運動等



- ・主運動はボール送りリレーを実施。6班に分かれ、後ろ向きでボールを送り、折り返し地点のコーンを回り、再びボールを送りながらゴールし、順位を競う。1回目はバスケットボール、2回目はバレーボール、3回目は班ごとにボールをどちらかを選び、合計3回実施。



- ・運動の時間を振り返り、しっかりルールを守り実施していた。ルールを守りながら、いろいろな発想でルールを解釈する重要さも大切だと話す。座学の時間は、運動の時間に感じたこと、工夫したこと等を思い出しながら、オリンピックバリューに結びつけて考えてみよう伝え、授業終了。

- 期 日：2021年10月29日(金)
- クラス：2年2組(33名)
- オリンピック：黒岩 敏幸 先生 (スケート/スピードスケート)
【出場オリンピック/ アルバールビル大会、リレハンメル大会、長野大会】

■授業のながれ：座学の時間(6時限)

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



- ・アルバールビル大会で獲得した銀メダルと、東京2020大会で聖火リレーを走った際に、実際に持ったトーチを披露する。
- ・運動の時間に話したオリンピックバリューについて、エクセレンス＝「あきらめない気持ち」「努力する心」「ベストを尽くす」等。フレンドシップ＝「チームで協力した」「思いやり」「チームワーク」等。リスペクト＝「感謝の気持ち」「ルールを守る」等を感じることができたと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



- 発問：運動の時間を振り返り、オリンピックバリューについて考えよう
 発表：エクセレンス：「練習から全力で取り組んだ」「最初から最後まで諦めなかった」「楽な方法を選ばなかった」等
 フレンドシップ：「相手を取りやすい様にボールを投げた」「お互いを理解することができた」等
 リスペクト：「ルールを守ることができた」「他のチームの作戦に文句を言わず認めた」等



- ・オリンピック教室だけではなく、日常生活の中の部活動や習い事、真剣に取り組んでいること等をオリンピックバリューに当てはめて考えることで、物の捉え方も変わり、人間の資質という部分が向上していくと思う。今後、目標に向かって挑戦するときは、今日の授業を思い出し、どのようにすれば目標に近づくのか、柔軟に自分の中で考えを整理し、どんどんチャレンジしてほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

